

||||| ICAパリ大会報告 |||||



XI CONGRÈS INTERNATIONAL DES ARCHIVES  
XI CONGRESO INTERNACIONAL DE ARCHIVOS  
XI INTERNATIONAL CONGRESS ON ARCHIVES  
XI INTERNATIONALER ARCHIVKONGRESS  
XI Международный Конгресс Архивов

第11回国際文書館会議参加報告

世界の文書館界最大の行事である国際文書館会議(国際文書館評議会=ICA主催)の第11回大会が、去る1988年8月22日から26日までの5日間、パリ最大の国際会議場パレ・デ・コングレで、フランス共和国ミッテラン大統領を迎えて盛大

20

安藤正人

に開催された。

大会テーマは“新しい文書館資料”。マイクロフィルムや録音テープ、磁気ディスクなどの新しい記録媒体による史料をどう保存していくかという、まことに今日的なテーマであった。

参加者は事前登録者だけで93カ国1,500人。実際には軽く2,000人を超えていただろう。わが国からは、本会顧問の岩上二郎参議院議員をはじめ、菅野弘夫国立公文書館長、小川千代子(国立公文書館)、小林辰男(元東京都公文書館)、松村光希子(国立国会図書館)、大西愛(大阪府公文書館)、人見彰彦(岡山県史編纂室)、倉田哲治(弁護士)、安澤秀一(国立史料館)の各氏、それに筆者の、合わせて10人が参加。アジアとしては中国の19人に次ぐ人数となった。

この大会で、公文書館法制定に力を尽くされた岩上顧問に対しICA名誉メダルが贈られることが決まり、閉会式の席上発表された。心よりお祝い申し上げますと共に、本大会がわが国にとって画期的な大会になったことを喜びたい。

なおご承知のように、全史料協は1986年にB会員(全国的アーキビスト団体)としてICAに正式加盟している。そこで今回は理事である安澤氏が須藤会長の委任状をうけて全史料協代表ということになり、総会に出席して投票権を行使した。総会では、A会員が負担する会費の算出方法について大きな変更が採択されたが、B会員に直接関わる重大な議題はなかったように思う。以下、紙幅の関係で、主な大会日程と全体会での発表者、論題を中心に報告する。

### 〔大会日程〕

22日	午後	開会式
	夜	パリ市長主催レセプション (パリ市シティ・ホール)
23日	午前	第1全体会
	午後	委員会、分科会
	夜	国立文書館長主催レセプション (国立文書館)
24日	午前	第2全体会
	午後	国際文書館評議会総会第1回会議
	夜	フランス政府主催レセプション (ベルサイユ宮殿)
25日	午前	第3全体会
	午後	委員会、分科会
26日	午前	第4全体会
	午後	国際文書館評議会総会第2回会議 閉会式



会場のパレ・デ・コングレ

### 〔全体会報告〕

第1全体会(23日) —————

主報告:

Paule René-Bazin(フランス)

“新しい文書館資料——原則：作成と受入”

関連報告:

Wolfgang Klaue(ドイツ民主共和国)

“文書館資料としての視聴覚記録”

Christopher H. Roads(イギリス)

“文書館資料としてのラジオ・テレビ番組”

Trudy Huskamp Peterson(アメリカ)

“文書館資料としての機械可読記録”

Janna Kraitcheva and Maja Burmova  
Veltcheva(ブルガリア)

“文書館資料としてのマイクロ写真”

Saliou M'Baye(セネガル)

“口承(オーラル)記録史料”

Jean-Pierre Wallot(カナダ)

“新しい文書館資料は既設の文書館で保存する  
のか、新しい特別機関を設けるのか?”

第2全体会(24日) —————

主報告:

Feodor M. Vaganov(ソ連)

“新しい文書館資料の保存”

関連報告:

Eric Turner(シュラレオネ)

“熱帯諸国における特殊問題”

Feng Zizhi(中国)

“発展途上国における技術上の選択”

Maria Pia Rinaldi Mariani(イタリア)

“国際的技術協力”

Ana Maria de Almedia Camargo(ブラジル)

“新しい文書館資料とアーキビストの訓練”

R. K. Perti(インド)

“文書館における人材開発と活動方針”

第3全体会(25日) \_\_\_\_\_

主報告:

Eric Ketelaar(オランダ)

“新しい文書館資料の利用”

関連報告:

Lean Pieyns(ベルギー)

“整理方法と新しい文書館資料”

John Herstad(ノルウェー)

“研究コストと財源”

Peter Bücher(ドイツ連邦共和国)

“視聴覚記録史料の利用と複製に関する法的  
問題”

Claes Gränström(スウェーデン)

“機械可読史料の利用の法的問題”

Pedro Gonzalez(スペイン)

“ペーパーレス閲覧室?”

第4全体会(26日) \_\_\_\_\_

オープン・フォーラム “ICAの今日と明日”

〔分科会〕

全史料協として参加したのは、23日午後の専門職団体部会(SPA)主催によるオープン・フォーラム。各国のアーキビスト協会にまじり筆者も“アーキビストの専門性の向上における全国的団体の役割——全史料協の場合”と題する短い報告を行った。またオーストラリア・アーキビスト協会、中国档案学会の代表などと親しく交歓した。